

平成 3 1 年度 南区地域福祉アクションプラン
福祉分野別計画 進行管理表

- 児童・子育て支援 1 ~ 3
- 障がい者福祉 4 ~ 6
- 高齢者福祉・介護支援 7 ~ 9
- 地域づくり 1 0 ~ 1 2

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	安心して子育てできるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	子育て世代が孤立しないまちづくり			
課題	子育て相談、支援に関する情報提供	・健診や育児相談会、保健師や助産師による訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報提供や相談の場をつくる。 ・情報誌やホームページの活用によって情報を提供する仕組みを構築し、子育ての相談、支援に関する情報提供を強化する。 ・乳幼児健診の場を、子育ての相談や仲間を見つける機会として活用する。	①	多様な手法による子育て情報発信
	子育て支援制度の充実		②	子育て中の親同士の交流促進、ネットワークづくり
	同世代の親同士の意識づくり		③	訪問・相談事業の強化

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	健診や育児相談会、訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報を提供する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節6回、1歳6か月・3歳各12回	股関節5回、1歳6か月・3歳各11回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場各12回	3会場各11回	A	27 ~ 32
			新生児訪問回数	未定	産婦・新生児各400回	産婦347回 新生児等429回	A	27 ~ 32
②	健診や育児相談会の場を保護者の仲間づくりの機会として活用する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節6回、1歳6か月・3歳各12回	股関節5回、1歳6か月・3歳各11回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場各12回	3会場各11回	A	27 ~ 32
②	NPプログラムの開催(「Nobody's perfect」の略で、「完璧な親なんていない」という意味。親が相互に知恵と体験を出し合い、自らの力で問題を解決する講座。保育付き講座。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数・参加者数	未定	2回、24人	2回、19人 (2回目は6講座中4講座で終了)	B	27 ~ 32
②	BPプログラムの開催(初めて子育てをする親たちの親子の絆づくり講座。)	南区健康福祉課 児童館等	開催回数・参加者数	未定	4回、40人	3回、28人	B	27 ~ 32
②	子育て広場の開催(子育て支援リーダーによる、子育て中の親子が気軽に参加し、支援を行う場を提供するもの。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数・参加者数	未定	30回、750人	28回、466人	C	27 ~ 32
②	子育て講座等の参加者同士の繋がりを深めることができるようフォローする(子育てサロンの開催)	公民館、南区健康福祉課	開催回数	未定	月1回	19回	A	30 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等	評価指標
○子育て相談、支援に関する情報提供 ・健診や育児相談会、訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報を提供した。 (コロナウイルス感染拡大防止による事業中止により、一部の事業が目標達成に至らなかった) ○子育て支援制度の充実 ・健診時に悩みを相談できる場を作ったり、NPプログラム、BPプログラム、子育て広場等の実施により、同じような悩みをもつ保護者同士が話す場ができ、子育てに悩む保護者が孤立しないよう支援を行った。 (コロナウイルス感染拡大防止による事業中止により、一部の事業が目標達成に至らなかった) ○同世代の親同士の意識づくり ・NPプログラムやBPプログラムは、同じ参加者が複数回顔を合わせ話し合いを行うため、仲間づくりにつながり、参加後のアンケートでも「参加してよかった」という声が多かった。 また、健診や育児相談会等を仲間づくりの場として活用できている保護者も多い。 (コロナウイルス感染拡大防止による事業中止により、一部の事業が目標達成に至らなかった)	・コロナ禍により事業が中止・延期されたり、人が多く集まる場への参加をためらう人も多い。計画通りに事業が実施できない状況のなか、悩みを持つ保護者が安全に安心して相談できる体制づくりを今後も検討していく。 ・子育て広場の参加者が目標を下回っているため、参加しやすく魅力ある内容を検討するとともに、情報提供の場として活用されるよう、子育て支援リーダーのスキルアップを図っていく。 ・悩みを抱えながらも事業に参加できない場合や、相談につながらない保護者にどう対処していくかが課題であり、参加しやすい事業内容やPRを引き続き行っていく。	A 概ね90%達成 B 概ね75%達成 C 概ね50%達成 D ほとんど実施せず

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	安心して子育てできるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	地域で支えるゆとりを持った子育てができるまち			
課題	父親や家族の育児への参画	・子どもを連れて参加できる地域活動を増やすなど、親しい関係をつくる。 ・子育て関連の講座の開催にあたっては、保育付きの機会を増やす。 ・ボランティアの育成と活動を支援する。	①	子育て中の親同士の交流促進、ネットワークづくり
	地域からの声かけによる育児支援		②	地域住民全体で子どもを育む意識の向上
	子育てサロンやサークル活動などへの支援		③	子育て中の親子の居場所の確保
			④	子育て支援リーダー、ボランティアの育成と活動の支援

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	NPプログラムの開催 (「Nobody's perfect」の略で、「完璧な親なんていない」という意味。親が相互に知恵と体験を出し合い、自らの力で問題を解決する講座。保育付き講座。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数、参加者数	未定	2回、24人	2回、19人 (2回目は6講座中4講座で終了)	B	27 ~ 32
①	BPプログラムの開催(初めて子育てをする親たちの親子の絆づくり講座。)	南区健康福祉課 児童館等	開催回数・参加者数	未定	4回、40人	3回、28人	B	27 ~ 32
①	サロン交流会(子育て中の親子の不安やストレスの解消、情報交換の場として気軽に集うことのできる「親子の居場所」を支援し、活動費の一部を助成するもの。)	南区社会福祉協議会	開催回数、参加団体数	未定	年1回	未実施	D	27 ~ 32
①	子育て広場交流会の開催	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数、参加人数	未定	1回15組×2回	1回15組×1回	C	27 ~ 32
①	安産教室への父親参加を継続、家族・地域で子育てにつなげる	南区健康福祉課	開催回数	未定	1クール3回×年3回	1クール3回×年2回	B	27 ~ 32
			父親参加人数	未定	15人×3回	19人(2回)	C	27 ~ 32
②	各地区の多世代交流事業の開催	各地区	各地区別計画で管理、評価	未定	未定			27 ~ 32
②	子育て講座等の参加者同士の繋がりを深めることができるようフォローする(子育てサロンの開催)	公民館、南区健康福祉課	開催回数	未定	月1回	19回	A	30 ~ 32
③	子育て広場の開催(子育て支援リーダーによる、子育て中の親子が気軽に参加し、支援を行う場を提供するもの。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数、参加者数	未定	30回、750人	28回、466人	C	27 ~ 32
④	子育て支援リーダーの育成	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	支援リーダー数	20人	1人増	増減なし	C	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等	評価指標
○父親や家族の育児への参画 ・安産教室に一回あたり10人ほどの参加があり、育児への参画の第1歩となっている。 ・安産教室や健診等を利用して、父親や家族の育児参加があった。 (コロナウイルス感染拡大防止による事業中止により、一部の事業が目標達成に至らなかった)	・子育て広場などの事業を継続して実施してだけでなく、保護者の求める情報提供ができるよう内容の充実を図っていく。 ・(社協)運営する団体への支援として、活動費に関する助成金など運営面でのバックアップを行います。また、子育てサロンが南区内で2か所であることから、継続や運営するのにどのような課題があるのかについて現状把握を行います。	A 概ね90%達成
○地域からの声かけによる育児支援 ・子育て支援リーダーによる子育て広場は、気軽に参加できるよう、区内の複数個所で開催し、高評価を得ており、子育てへの不安解消につながっている。 (コロナウイルス感染拡大防止による事業中止により、一部の事業が目標達成に至らなかった)		B 概ね75%達成
○子育てサロンやサークル活動などへの支援 ・(社協)サロン交流会はコロナウイルス感染拡大防止による事業中止により、目標達成に至らなかったが、11月に南区ふれあい親子祭りを実施、親子46名が参加する交流会を行った。		C 概ね50%達成
		D ほとんど実施せず

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援)

基本目標 「ひとひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	小項目	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
課題	子どもに関する悩みについてアドバイス	・育児についての悩みの相談・支援体制を強化。 ・保育園の園開放や児童館のイベントなどを通じて情報発信に努め、保護者同士の交流会の機会をつくる。 ・中高生を対象とした思春期教育により正しい知識の定着を図る。	①	子育て中の親同士の交流促進、ネットワークづくり
	子どもが安心して遊べる環境		②	地域住民全体で子どもを育む意識の向上
	子育て支援施設や事業の内容の周知が不十分		③	子育て中の親子の居場所の確保
			④	子育て支援リーダー、ボランティアの育成と活動の支援
			⑤	児童館・子育て支援センターによる子育てネットワークの構築
			⑥	訪問・相談事業の強化
			⑦	中高生を中心とした思春期教育の推進

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	健診や育児相談会、訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報を提供する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節 6回、1歳6か月・3歳 各12回	股関節5回、1歳6か月・3歳各11回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場 各12回	3会場各11回	A	27 ~ 32
			新生児訪問回数	未定	産婦・新生児各400回	産婦347回 新生児等429回	A	27 ~ 32
②	健診や育児相談会の場を保護者の仲間づくりの機会として活用する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節 6回、1歳6か月・3歳 各12回	股関節5回、1歳6か月・3歳各11回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場 各12回	3会場各11回	A	27 ~ 32
②	子育て広場の交流会の開催	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数、参加人数	未定	1回15組×2回	15組×1回	C	27 ~ 32
②	子育て講座等の参加者同士の繋がりを深めることができるようフォローする(子育てサロンの開催)	公民館、南区健康福祉課	開催回数	未定	月1回	19回	A	30 ~ 32
③	ファミリー・サポート・センターによる子育て世帯の支援、事業PR	南区健康福祉課 南区社会福祉協議会	登録者数、提供会員数	未定	登録者数60 提供会員数30	登録者数105 提供会員数25	A	27 ~ 32
④	既存の保育サービスの拡充と新たなサービスの検討	南区健康福祉課		未定		一斉メール、タイムレコーダー導入の検討	C	27 ~ 32
⑦	思春期教育の実施	南区健康福祉課・中学校・高校	開催回数	未定	高校1回 中学校8回	高校1回、中学校4回	C	27 ~ 32
			参加人数	未定	高校80人 中学校400人	高校67人 中学校173人	C	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
○子どもに関する悩みについてアドバイス ・健診や育児相談会、訪問などの機会に育児支援を強化できた。 (コロナウイルス感染拡大防止による事業中止により、目標達成に至らなかった) ○子どもが安心して遊べる環境 ・児童館や子育て支援センターの運営について、地域の方も含め関係者による情報共有や意見交換を行い、よりよい施設運営に努めた。 ○子育て支援施設や事業の内容の周知が不十分 ・健診や育児相談会、訪問時に、その人に合った内容の事業を案内している。 ・子育て支援センターや児童館など、対象となる人が利用する施設でのチラシ配布などで周知を行った。 ・(社協)南区社協だよりにファミサポの提供会員の募集及び研修の周知を掲載した。	・子育て広場の交流会など、事業に参加している保護者への対応は充実してきているが、事業等に参加できず、相談できずに一人で悩んでいる保護者がいなくなるよう、相談や参加しやすい事業内容を検討していく。 ・(社協)ファミリーサポートセンターは登録者数は一定数いるものの、利用が少ない。必要な人に分かりやすく制度の内容が伝わるよう周知を図っていく必要がある。

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉)

基本目標 「ひととひとがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	福祉サービス利用の相談体制充実		番号	内容
課題	相談支援事業者等の周知	・関係する専門機関が情報を共有し, 相談する人の立場に立った相談や情報の提供が図られる相談支援体制の推進 ・行政や社会福祉協議会等の広報を利用して, 相談窓口の周知	①	相談支援事業の強化
			②	基幹相談支援センターの充実
			③	多様な手法による障がい福祉制度の周知

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
③	区だより掲載	南区健康福祉課	広報掲載	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
③	社協だより掲載	南区社会福祉協議会	広報掲載	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
①②	相談支援に関する研修会開催	南区健康福祉課, 基幹相談支援センター秋葉	実施数	5回	1回	1回	A	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
○相談支援事業者等の周知 ・新潟市の南区だより(10/20号)及び区社協だより(9/22号)に障がい者の相談窓口である、障がい者基幹相談支援センター秋葉の利用を周知しました。 ・子どものライフステージに関わる関係機関を対象とした研修会において障がいに関する困りごとの相談窓口の周知を図りました。	・どこに相談したらよいかわからないという人が減るように, 引き続き周知を図っていきます。

評	A	概ね90%達成
価	B	概ね75%達成
指	C	概ね50%達成
標	D	ほとんど実施せず

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉)

基本目標 「ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	障がいのある人と地域が交流できるまち		番号	内容
課題	地域の人たちへの障がいに対する理解と地域の受け皿づくり	地域で行われているまつりやイベントなどの交流の場に障がいのある人が積極的に参加できるよう地域住民が呼びかけるなど、受け入れ環境の整備の推進	①	民生委員・児童委員, 地区社会福祉協議会やコミュニティ協議会及びその他の団体との連携強化
			②	小中学校の支援学級に対する情報提供
			③	精神障がいについて受け入れ環境の整備

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①②	南区自治協議会, 校長会へ情報発信	南区健康福祉課	情報発信数	6回	1回	校長会等1回	B	27 ~ 32
①	地区社会福祉協議会行事への参加依頼	南区社会福祉協議会	情報発信数	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
③	心の健康づくり講座	平成31年度から実施主体がNPOに移行						

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○地域の人たちへの障がいに対する理解と地域の受け皿づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものライフステージに関わる関係機関を対象とした研修会において障がいに関する困りごとの相談窓口の周知や、障がい福祉サービス事業所の紹介などの情報発信、情報共有を行いました。 ・H30年度に実施した障がい者の福祉に関するアンケート結果や個別支援から見えた一課題である、障がい者の移動支援について、ワークショップを3回実施しました。 (①5/29②9/1③9/8) 	<p>・障がい者が地域で生活をおくるために必要な移動の方法などについて、行事等の参加ができるよう、継続的に地域と情報共有を図っていく必要がある。</p>

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉)

基本目標 「ひととひととがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	自立支援体制の充実		番号	内容
課題	地域の課題の解決に向けて話あえる環境の整備の推進	南区障がい者地域自立支援協議会や南区地域福祉ネットワーク会議を通じ, 関係機関における情報共有を進めることで, 生活課題の早期発見や早期支援に努める	①	南区障がい者地域自立支援協議会の運営
			②	南区地域福祉ネットワーク会議の運営
			③	障がい児関係者合同研修会の開催

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	南区障がい者地域自立支援協議会の運営	南区健康福祉課	開催回数	24回	4回	4回	A	27 ~ 32
②	南区地域福祉ネットワーク会議の運営	南区保健医療福祉のつながりを深める会	開催回数	12回	2回	2回	A	27 ~ 32
③	障がい児関係者合同研修会	南区健康福祉課	開催回数	3回	1回	1回	A	30 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○ 地域の課題の解決に向けて話あえる環境の整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の障がい者が関わる関係機関から構成される「南区障がい者地域自立支援協議会」を4回開催し地域課題の解決に向けて取り組みました。(①5/17②8/30③11/15④2/21) ・南区地域福祉ネットワーク会議については, 研修会や公開講座を開催し, 顔の見える関係づくりに取り組み, 大勢の方にご参加いただきました。(①, 8/31②1/13) ・子どものライフステージに関わる関係機関を対象とした「障がい児関係機関合同研修会」を開催し, 顔の見える横のつながりを目標に課題解決に向け情報を共有しました。(6/27) 	<p>・今後も顔の見える関係づくりに取り組み, 生活課題の早期発見, 早期支援に繋げていきます。</p>

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齡者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	高齡者・介護者を支えあうまちづくり			
課題	地域力の弱体化(人間関係が希薄になり、隣近所の様子がわからない)	地域で緩やかな見守りができるような取り組みづくりと高齡者・介護者の支援体制の周知	①	地域全体で高齡者を見守る体制の構築
	地域包括支援センターの認知度		②	高齡者の相談窓口「地域包括支援センター」の周知
	介護教室の参加人数		③	介護者の支援
			④	地域ケア会議を活用した関係機関のネットワーク構築

特記事項: 高齡者福祉・介護支援分野の小項目「高齡者の閉じこもりや孤立を防止」については、地域づくり分野の小項目「地域の茶の間・ふれあいきいきサロン活動の支援」に包含して取組みます。

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	緩やかな見守りを行う取り組み支援	健康福祉課・南区社会福祉協議会・地域住民等	地域支援数	地域に合わせた支援	要望の数	要望のあった1団体を支援	A	29 ~ 32
②	高齡者・介護者支援体制の周知(地域包括支援センター・介護教室)	健康福祉課 包括介護教室受託事業所	発信数	行事の度	行事の度	行事の度	A	27 ~ 32
③	介護教室の受託事業所の開拓	健康福祉課	委託事業者数	1ヶ所~3ヶ所	3ヶ所継続	3ヶ所継続	A	27 ~ 32
④	区・圏域ケア会議を利用したネットワークの支援	健康福祉課 包括	開催回数	毎年開催	区域 2回 各圏域 1回	各圏域 計7回 個別開催 計8回	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○地域力の弱体化(人間関係が希薄になり、隣近所の様子がわからない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日ノ出町ふれあいの会による見守り活動の取組み。 ・H30年度に引き続き「助け合いの学校in南区」を開催し、地域で助け合いの活動を行ううえでの心構えやマナーを学んだ(受講者数:40名)。 <p>○地域包括支援センターの認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南区役所だより「みなみ風」に毎月1回、連載記事を掲載。同センターに関する各種情報発信を行い、その認知度向上を図った。 ・センター職員が地域の茶の間に参加し、同センターの役割について説明を行った。 <p>○介護教室の参加人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南区3圏域で特色ある内容の介護教室を開催。【H31実績】実施回数:計7回(参加者数:計158名)。コロナ禍の影響で、3月開催予定だった味方地区の教室が中止。その結果、H30実績と比べて実施回数は1回減となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合いのしくみづくりに代表される地域力強化の取組みについて、現状、基本的な考え方の周知や一部の活動にとどまっており、具体的な成果がなかなか見えにくい状況にある。 ・介護教室はその内容が介護者向けか一般向けかで参加者数にかなりのばらつきが見られるため、それぞれのニーズを的確に把握し、参加者増につなげていく必要がある。

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齢者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	高齢者の健康づくり・介護予防の推進	・健康の維持・増進のため、健(検)診受診率の向上や、子どもを含めたより良い生活習慣の確立に向け、地域における健康づくりの取り組みを進める。 ・保健会と自治会、コミュニティ協議会など関係機関と連携し、継続的に活動を展開。 ・健康づくりは、運動・食事・休養・こころの健康等様々な分野に及ぶため食生活推進委員、運動普及委員とも連携した健康づくりに取り組む。	①	高齢者の健康づくりと介護予防の推進
課題	生活習慣病の予防と早期発見につながる特定健診の高齢者層の受診率、後期高齢者健診、各種がん検診は、低い状況		②	地区保健会活動の推進
	生活習慣では、飲酒・喫煙率が高く、運動の習慣がある人が少なく、このままでは生活習慣病の発症が危惧される			

特記事項: 高齢者福祉・介護支援分野の小項目「高齢者の閉じこもりや孤立を防止」については、地域づくり分野の小項目「地域の茶の間・ふれあいきいきサロン活動の支援」に包含して取組みます。

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	地区での健康づくり講座のフォロー講座実施(ウォーキング講座)	健康福祉課 地域住民	講座開催数	10回以上	2回	2回	A	27 ~ 32
①	ミニドック型集団健診の実施とコミ協での申し込み受付	健康福祉課 地域住民	特定健診受診者数	年4,000人	4,000人	2,947人 (R2.5末)	B	28 ~ 32
①	はかろう体重! あるこう南区! 大作戦の実施	健康福祉課 地域住民	カード配布数	10,000枚	10,000枚	11,068枚	A	28 ~ 32
②	地区での健康づくり講演会の実施	健康福祉課 地区保健会	講演会開催数	40回以上	10回	13回	A	27 ~ 32
②	生活習慣病予防事業「元気アップ講座」の開催	健康福祉課 地区保健会	講座開催数	70回以上	14回	13回	A	27 ~ 32
②	市民活動支援事業(保健会だよりでの啓発や世代間交流など地区の実情にあった事業実施)	健康福祉課 地区保健会	事業実施数	60回以上	12回	14回	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
○生活習慣病の予防と早期発見につながる特定健診の高齢者層の受診率、後期高齢者健診、各種がん検診は、低い状況 ・コミ協と連携しながらミニドック型集団健診のPRや申込受付を実施し、特定健診受診者は増加しているが全体では目標値までは達しなかった。 ○生活習慣では、飲酒・喫煙率が高く、運動の習慣がある人が少なく、このままでは生活習慣病の発症が危惧される ・「はかろう体重! あるこう南区! 大作戦」やウォーキング講座等の事業を継続して実施することで、区民の健康づくりへの意識が少しずつ高まってきている。 ・体重測定だけでなく歩数でも参加できるように「はかろう体重! あるこう南区! 大作戦」に一部修正することで、誰でも参加しやすくなった。 ・地区保健会と連携しながら、地区の状況に合わせた講座を実施し、健康づくりに関する周知・啓発を行った。	・ミニドック型集団健診では特定健診の受診者が徐々に増えてきているが、高齢者層の受診率が低いため、さらなるPRが必要である。また、健(検)診を受けやすい体制を検討し、医療機関と連携していく。 ・取り組みやすい内容の事業や講座を継続実施し、健康意識の向上を図る必要がある。そのためには地区保健会や自治会、コミ協等の関係機関と連携し、様々な場面を捉えて今後も広くPRしていく。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齢者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	認知症の予防と対策		番号	内容
課題	認知症高齢者の増加	認知症予防と認知症の正しい理解を広める	①	認知症予防のための認知症予防出前講座の開催
	認知症の理解		②	認知症の理解を深め, 介護者を支える地域づくり

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	認知症予防出前講座	健康福祉課 運動普及推進委員	教室実施回数	12回/年	12回	13回	A	30 ~ 32
②	認知症サポーター養成	健康福祉課 キャラバンメイト	周知回数	2回/年	2回	2回	A	27 ~ 32
②	キャラバンメイトのネットワークづくり	健康福祉課 キャラバンメイト	連絡会開催数	1回/年	2回	0回	D	27 ~ 32
②	認知症カフェの開催	地域包括支援センター, 白根健康センター, NPO法人ゆうわ	開催回数	4回/年	12回	11回	A	27 ~ 32

特記事項: 高齢者福祉・介護支援分野の小項目「高齢者の閉じこもりや孤立を防止」については, 地域づくり分野の小項目「地域の茶の間・ふれあいきいきサロン活動の支援」に包含して取組みます。

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○認知症高齢者の増加</p> <p>・毎月第4土曜日に白根健康福祉センターで認知症カフェを開催した(3月はコロナ禍により中止)。認知症カフェでは, 認知症のミニ講座や認知症予防の体操などの取組みのほか, 茶話会を通じて認知症介護者が交流できる場を提供した。</p> <p>○認知症の理解</p> <p>・認知症サポーター養成講座について, H31年度では15件の申請があり, 自治会や地域の茶の間等で開催した。また, 同講座について, 南区役所だより「みなみ風」に2回開催案内を掲載した。「みなみ風」にはそのほか「健康応援通信」として「認知症のはなし」の記事を掲載し, 認知症に関する基礎的な知識の周知・啓発を行った。</p>	<p>・令和2年度から本市の認知症サポーターキャラバン事業事務局の業務が外部委託されることを受け, この3月末をもって南区におけるキャラバンメイト連絡会は解散した。そのため, それまで同連絡会が担ってきた役割(メイト間の情報交換や新人メイトの育成支援等)や培ってきたノウハウの継承をどう進めていくか, 今後関係団体と協議を行う予定である。</p> <p>・認知症を身近なものとして考え, 正しい知識の普及や啓発に向けた取組みを今後より強化する必要がある。そのためには関係機関との連携が必要となるため, 関係機関同士によるネットワーク構築を進めていく。</p>

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり)

基本目標 「ひととひとがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	私たちが支えあい, 助けあうまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	地域のボランティア活動の場発信と活動支援			
課題	ボランティア団体の連携が弱い	・ボランティア活動の情報集約とネットワーク化 ・ボランティア養成と活動の場充実 ・ボランティア同士の情報交換の場設置による相互の理解, 交流の深化	①	白根健康福祉センターのボランティア活動の拠点化
	次世代のボランティア育成		②	南区版ボランティア情報誌の発行
	あらゆる世代への福祉教育による住民の支えあい意識の醸成		③	ボランティア情報の集約とネットワーク化
			④	ボランティア養成講座の開催と活動の場紹介
			⑤	福祉教育の充実
			⑥	災害ボランティアの育成

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	ボランティアルーム利用方法の検討及び利用性の向上	センター管理者 ボランティア・市民活動センター	情報の提供回数	随時	随時	随時	A	27 ~ 32
		健康福祉課	センター等から報告(随時)	随時	随時	随時	A	27 ~ 32
②	ボランティア情報誌(紙)の発行	ボランティア・市民活動センター	発行回数(年2回)	11回	年2回	年2回	A	27 ~ 32
③	ボランティア団体(代表)の交流会開催による情報集約, 連携体制構築	ボランティア・市民活動センター	交流会開催回数(年2回)	11回	登録ボラ1回 中学生ボラ1回	登録ボラ1回 中学生ボラ1回	A	27 ~ 32
④	講座, 研修会(公民館主催を含む)の中で紹介	ボランティア・市民活動センター 公民館	講座等開催回数(年4回)	24回	講座 2回 研修 2回	講座1回 研修2回	B	27 ~ 32
⑤	区内小中学校の総合学習の時間を利用した福祉教育の推進・企業向け福祉教育	ボランティア・市民活動センター 小中学校, 地元企業	実施回数(年16回)	96回	20回	43回	A	27 ~ 32
⑥	災害ボランティアセンター設置訓練開催, 災害ボランティアセンター検討委員会開催	ボランティア・市民活動センター, 災害ボラセン検討委員	・訓練(年1回) ・検討委員会(隔月1回)	72回	設置訓練 1回 検討会 6回	設置訓練1回 検討会5回	B	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
○ボランティア団体の連携が弱い ・ボランティア講座、研修会、交流会等を開催した際のアンケートによる情報収集を行った。 ・南区はボランティアとサロンを並行して行っている方が多いことを鑑み、登録ボランティア・サロン合同で、山古志復興館へのバス研修や活動報告を盛り込んだ交流会を実施、交流を深化させた。	・現在活動しているボランティア団体の活性化を図る一助として、県内外の助成金への応募機会を増大させる。 ・ボランティア活動の場を広げるために、ボランティアしてもら側側のボランティアへの理解と受援力を高める。
○次世代のボランティア育成 ・ボランティア講座で、障がい者事業所の活動紹介と授産品を使ったスイーツ作りを行い、障がいの理解を広めることでボランティアをする土壌を醸成した。	・災害ボランティアセンターについては、運営側のスキルアップを図るとともに、多くの区民がセンター機能について知る機会を作る。
○あらゆる世代への福祉教育による住民の支えあい意識の醸成 ・自治会主催による避難訓練に連動する勉強会として、ベッドから車いすへの移乗、屋内から屋外への移動など、要援護者の避難活動の方法を学ぶことが出来た。また、南区内の小学校、白根高校生に対し福祉教育を行い、福祉に対する理解を深めることが出来た。	・ボランティアセンターが行う福祉教育、講座、研修会などを、支え合いのしくみ作りの取り組みと連携し、またCSWとも協働して多世代の意識の醸成を図る。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	私たちが支えあい、助けあうまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	地域の茶の間・ふれあいきいきサロン活動の支援 (※高齢者の閉じこもりや孤立を防止)		番号	内容
課題	傾向として参加者女性のみまたは女性がほとんどで、また自力歩行による会場への移動が困難となっている。	・徒歩で参加できる範囲内にある茶の間等のPR方法の検討、広報 ・世代間交流を図りながら茶の間等の参加者や支援者の勧誘方法を工夫する	①	地域の茶の間とサロン交流会開催
	10年~15年続いている茶の間の代表の代替わりの時期となっている。		②	地域の茶の間とサロン運営研修会開催
	サロン・お茶の間独自開催できないところがある。		③	活動紹介や内容メニューを記載した冊子作成
	参加者の人数が少ないところは、助成金の活用が難しい。(概ね10人以上の参加者が必要)		④	地域の茶の間とサロンの立ち上げ支援
			⑤	地域の茶の間とサロンでの世代間交流会の開催

※特記事項: 高齢者福祉・介護支援分野の小項目「高齢者の閉じこもりや孤立を防止」については、地域づくり分野の小項目「地域の茶の間・ふれあいきいきサロン活動の支援」に包含して取組みます。

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①, ②	各種講座やサロン交流会及び研修会の実施	南区社会福祉協議会	ボランティア登録者数増	30名増	・交流会年1回 ・研修会年1回	・交流会年1回 ・研修会 中止	C	27 ~ 32
②	男性を対象にした交流会の開催	南区社会福祉協議会 協力自治会	交流会開催	年2回	年2回	未実施	D	27 ~ 32
③	・南区サロン・お茶の間マップを年1回社協だよりに掲載(27年以前からの継続) ・サロン活動内容の広報 ・各お茶の間(サロン)会場に冊子を設置し、随時内容を更新	南区社会福祉協議会	・サロンお茶の間の情報を社協だよりに掲載 ・サロン活動内容等を広報誌に掲載 ・冊子は各お茶の間に設置	・広報紙掲載 ・6年で冊子作成1回	・広報紙掲載 ・冊子内容更新	・広報紙掲載 ・冊子内容更新	A	27 ~ 32
④	地域に合った茶の間づくり支援	地域の茶の間等 社会福祉協議会	立ち上げ要望に応じて相談	未設定	未設定	新規3件	A	28 ~ 32
⑤	世代間交流会の開催(年2か所)	地域の茶の間等 社会福祉協議会	新規交流会開催回数	10か所	2か所	新規なし	C	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○傾向として参加者女性のみまたは女性がほとんどで、また自力歩行による会場への移動が困難となっている。 ・男性を対象とした茶の間の開催(天昌堂)を2回企画した(コロナ感染防止で中止)。 ・移動については、今後の方向を考える機会として、支え合いのしくみづくりフォーラムの中で取り上げることができた。併せて、障がい者の移動についても、当事者や家族を対象に課題等についてのワークショップや、区バス乗車体験、多職種連携会議における課題出し等に取り組む、今後の移動支援の検討につなげることが出来た。</p> <p>○10年~15年続いている茶の間の代表の代替わりの時期となっている。 ・代表者が高齢な茶の間もあるが、代表者をサポートする方(民生委員やスタッフ)により、運営はスムーズに行われている。R元年度は、代表者を交代した茶の間が複数あり、交流会へ一緒に参加するよう声掛けをするなどスタッフ側への取り込みも促すことが出来た。</p> <p>○サロン・お茶の間独自開催できないところがある。 ・地域の茶の間の助成申請などの事務手続きや会場設営(鍵開けなど)は地域の方が行っているが、年間スケジュールは、包括・保健師・社協が年に1~2回程度担当することとなっている。地域の方が、地域の行事や、季節の内容を取り入れ運営できるよう、それぞれの機関が担当する時間を減らし、サポート側に回るなどして独自開催を促すことが出来た。</p> <p>○参加者の人数が少ないところは、助成金の活用が難しい。(概ね10人以上の参加者が必要) ・新潟市の地域の茶の間への助成金は「概ね10人以上」としている。参加者を増やすため、開催チラシを回覧板等で回したり、また、区社協だよりでも地域の茶の間マップを掲載し、開催曜日や時間帯を周知することが出来た。</p>	<p>・身近な人たちが集まる地域の茶の間において、住民の生活課題などを発見できるようアンテナをはり、関係機関と連携して支援へつなげる。</p>

評	A 概ね90%達成
価	B 概ね75%達成
指	C 概ね50%達成
標	D ほとんど実施せず

平成31年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり)

基本目標 「ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	私たちが支えあい、助けあうまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	避難行動要支援者支援体制の充実		番号	内容
課題	避難行動要支援者支援制度について、避難行動要支援者名簿登録対象者への周知不足	避難行動要支援者名簿を活用した地域住民による助け合いの体制づくり	①	自主防災訓練を通しての要支援者支援訓練の実施
	地域の助け合い意識の向上		②	災害ボランティアの育成

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	各自主防災会での防災訓練における要支援者訓練の実施	各自主防災会	訓練実施率	100%	80%	39%	C	27 ~ 32
①	避難行動要支援者名簿と登録対象者の確認	自治会 各自主防災会	区が名簿更新時に自治会等へ確認要請する。	全団体	全団体	全団体	A	27 ~ 32
①	地域の避難行動要支援者登録対象者への意識付け	自治会 各自主防災会	自治会研修会で確認(年1回)	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
②	高校生防災ボランティア育成研修会の開催	南区総務課 白根高校	研修会開催回数(年2回)	10回	2回	2回	A	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○避難行動要支援者支援制度について、避難行動要支援者名簿登録対象者への周知不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者支援制度については市のホームページや広報誌などを活用して周知を行ってきたことから、制度の周知が進んでいる(自治会賛同率9割超)。 <p>○地域の助け合い意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の補助制度により地域の防災訓練における要支援者支援訓練の実施を進めてきたことから、徐々に実効性が向上している(訓練実施率 前年度34.7%→39.1%)。 ・高校生防災ボランティア育成研修会は学校でも積極的に実施していただき、高校生が災害時にできることや助け合いの精神を学ぶよい機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者支援制度について、市民の十分な理解が得られたといは言い難い状況であり、引き続き広報活動と支援訓練の推進を行っていく必要がある。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず